

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 7 年 3 月 24 日

公表:令和 7 年 4 月 1 日

事業所名 希望の丘豊橋

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○		日によって、給食時は何名職員がいても足りないと感じる時がある。 利用児の動きに対し、職員同士が声をかけ合いみんなで安全性など対応するよう心掛けている。	必要な人員配置はしていますが、給食の時間は一人ひとりへの支援も増える為、職員の日や手はあればあるほどいいと感じています。現状の職員数でもしっかり連携を取って質の高い支援をしていけるよう、これからも検討していきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		障害の特性に応じた空間設定、情報伝達を行っている。 その時の子どもたちの姿を観察しながら、できる配慮を職員全体で行っている。 ロッカーは毎度自分の置きたいところへ荷物を入れることができる。固定ではない忘れ物もあり、荷物の確認や子どもと一緒に支度をする等、物の管理方法は再度考えていきたい。	将来社会へ出た時のことを見据えて、ロッカーや下駄箱に個々のマーク等は設置していません。(必要がある子には用意します)その分、手荷物が多い日は個々の荷物の把握が難しい場合があります。自由に使える荷物入れを用意するなど環境面の工夫や、自分のものを自分で管理する力を育てる支援等、利用児の姿に合わせて考えていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		子どもたちがそれぞれ取り組みたいという意欲に合わせて遊べる空間が用意されている。 机や遊具の配置など、必要に応じて場所を変えてスペースを広げている。	
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		よりしっかりと目標設定と振り返りを行っていきたい。 毎朝のミーティングやタワの利用児が少ない時間に職員同士でこまめな話し合いを心掛けている。	来年度は月毎に的を絞った目標設定と振り返りを行っていく予定です。そうすることによって職員の意識が高まり、様々な視点で発達を見ることでスモールステップで課題が設定でき、子どもたちを褒める機会を増やせると考えています。
業務 改善	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			毎年2月に事業所向け自己評価及び保護者向け評価を実施し、4月にホームページで公表しています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は受けていないので、今後検討します。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		他施設へ研修に行き、アドバイスをもらうなど学べる機会がある。 施設見学や自分の業務の質を向上させられるような研修に参加することができた。	内容を吟味した上で研修案内を周知しています。 過去に参加したことのある研修については、参加した職員が内容や感想などを伝えることで他の職員の研修参加への意欲を引き出しています。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		今以上に個々に合ったポイントを絞ってアセスメントを行っていききたい。 作成以外の職員も個別支援会議に参加して意見を伝えている。	個別支援計画作成までの流れとして、モニタリングで保護者から丁寧な聞き取りを行った上でアセスメントをし、個別支援計画原案作成後に更に個別支援会議でニーズや課題の確認をしています。
適切な 支援の 提供	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		各領域、見る視点を具体化しアセスメントを実践している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		様々な視点で本人支援を考えることで、充実した個別支援計画へとつながっているように感じる。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		個別支援計画を定期的に見直すことが必要。 個別支援会議を行い統一した支援をすることができた。 会議は基本的に計画の立て替え時に行っているが、必要に応じて子どもの様子を共有し、職員みんなで支援することができた。	必要に応じて「個別支援計画振り返りツール」の利用も検討していきます。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節に合わせて五感で感じることをできる活動や環境設定をしている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝のミーティングで適宜共有している。 スムーズに支援が行えるよう打ち合わせをし、疑問がある時にはその場で教えてもらえ確認ができる。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	△	子どもの様子で気になったことは忘れずケア記録にも残すようにしたい。 職員間での振り返りを行っているが全員が集まっては行えない為、ケースによっては週1回でも時間をとって話し合う必要があると感じる。 前日の気づきは翌朝のミーティング等で発信し、ノートにも記入をして後から見られるようにしている。 必ずではないが、気になる姿があった時やカンファレンスで支援の振り返りができている。	その日のうちに全員に共有することはできていないので、顔を合わせて話し合いができなかった職員にはICTなどを活用して共有できるように検討していきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		必要に応じてケア記録に記入。記入したことはミーティングなどで共有している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		その都度気になった点は声に出すようにしている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			保健師さんと連絡を取り合い連携した支援を行っているケースが何件かあります。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			対象者なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			対象者なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			連携会議を行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			正規職員が必要な時に共有している。必要に応じて行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			盲学校の先生を招き、関わりについての見解を聞くことができる。実践へ繋げられている。もっとたくさん児童発達支援事業所を見学させてもらい、療育の方法や環境づくり等を学んでいきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			希望が丘こども園を筆頭に、希望の丘豊橋がある「ふれあいセンター」内で様々な子どもたちと関わる機会がたくさんあります。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		令和6年度は『こども通所支援事業所連絡会』へ管理者以外の職員も数名参加しました。自立支援協議会へも機会があれば参加していきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			クラウドサービスを通して伝えている。もう少し直接的なコミュニケーションを増やしていきたい。子どもについて共有はするが、お話があまり得意でない保護者への声のかけ方に戸惑う時がある。保護者のほとんどが直接送迎をしている為、時間を見つけてその日の様子を共有するようにしている。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		家族支援プログラムではないが適宜対応している。プログラムとしての支援は行っていません。必要な方へは相談に応じたり、施設等で行っている支援方法をお伝えしたりしています。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			イベント時の交流会で、保護者同士話をしたり悩みを共有する機会を作っている。2か月に1度を目安に親子で参加できるイベントを設定すると共に、交流会を通して保護者同士の交流を促すようにしている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月20日前後に翌月の活動内容や季節に触れた文章を発信した。日々の記録や活動記録を通して日常が伝わるように努めている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			できるだけ保護者の思いに配慮して話そうにしている。難しい案件は職員間で話し合いをしてから伝えている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		見学はいつでも受け入れを行っていますが、事業所の行事への招待については行っていないので、どのような形なら実施が可能か検討していきます。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		BCPの内容を把握したり、職員間での学び合いも行った。	マニュアルの周知と訓練、マニュアルの見直しを今後も定期的に行っていきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練(火災、地震)を年2回計画し実践できた。	消防署へ計画を提出した避難訓練2回(内1回は総合訓練)だけでなく、ふれあいセンター合同の避難訓練にも複数回参加をすることができました。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		危険なことがあった時には職員に情報を共有し、再発防止に努めた。 報告書という形で記録を残している。 その日に起きた怪我などは全職員に共有するようにしている。また体調不良児報告書などを使って記録として残している。	事例集は作成して目につく場所へ提示していますが、しばらく見直しができているので行っています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		チェックシートで自分の支援方法を再度振り返ることができる。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		週に1回カンファレンスを行い、その都度振り返りを行っている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。